

PRESIDENT INTERVIEW

藤澤 信義

[Jトラスト 株式会社 代表取締役 社長]

FC岐阜を救ったトップの声 きっかけはつくった あとは君たち次第だ

昨年の暮れ、万年J2下位のFC岐阜の周辺が騒がしくなった。資金難に苦しんでいたところ、岐阜出身の経営者が手を差し伸べたのだ。負債の解消について関係者の調整をした上に、チームの補強費を投じ、名のある監督、選手の獲得に尽力。迎えた開幕戦は、新生チームに期待を膨らませた多くの人がスタジアムに駆けつけた。仕掛け人の名は、主に金融事業・不動産事業などのグループ会社を統括するJトラストの社長、藤澤信義。彼はどんな思いで、FC岐阜と関わりを持つこととなったのか。

※インタビューは3月24日実施
取材・構成◎高野直樹 [本誌]
写真◎佐々木 謙、J.LEAGUE PHOTOS



で、高校を卒業するまで岐阜で暮らしていたんです。地元ではずっとやんちゃなことをしていた分、故郷に錦を飾る、ではないですが、FC岐阜が財政難で苦しんでいるのなら、一定の支援をしよう。でも、サッカーのことはよく分かっていなかったんです(笑)

— その後の流れは？

藤澤 FC岐阜へ部下に電話させたところ、クラブの担当者がこちらに来てくれました。そこで、一定の支援をすることが決まったんです。昨年の夏も、チームの成績が悪かったために個人で補強費を用意しました。ギリギリの21位で残留を決めることができた。そしてそのシーズンが終わったあとに岐阜県知事(古田肇)と何度か会食したんです。「FC岐阜をどうしようか」と。このままではダメだし、誰かが何かをやらなければいけないところ。で、少くくは世の中のためになることをしよう、決意したんです。現在は地元において債務超過の解消をしよう前提で、増資という形で支援をクラブ側と進めています。一部報道では「無制限の支援」などと書かれていましたが、そんなわけはありません。僕にだって限界はあります(笑)

どこまで誰かが何かをやらなければいけない

— まず、どんな経緯でFC岐阜と関わるようになったのでしょうか。
藤澤 きっかけと言えば、一昨年、YAHOOで「FC岐阜の存続危機」というニュースを知ったことです。現在、さまざまなタイミングが重なって、たまたま、ある程度の資金を獲得できました。僕は岐阜生ま

藤澤 「チームが弱いから観客が集まらない。スポンサーも集まらないから資金難もある。そして選手を獲得できないから、ずっと弱い」という、負のスパイラルはあると思うんです。それを、正のスパイラルに変えたかった。いきなりチームを強くすることは難しいので、まず、人のある選手を入れて観客をスタジ

アムと呼ぶ。そうすると入場料収入とともにスポンサーも増えます。そのお金でさらに良い選手を呼べればチームはもっと強くなる。そして、さらに観客を呼べるという正のスパイラルになると思います。鶏が先か、卵が先か、の話で、どこかで誰かが思い切ってやらないと、正のスパイラルにはならないですね。それをつくるのが目的でした。

的に書いてくれていきます。知名度は高まったと思いますし、それはあまり予期していなかったことなんです。今回のことでの、会社としてのメリットはあったのですか。
藤澤 今シーズンはユニフォームの背中スポンサーです。会社の知名度が上がって、あれだけ露出できたのですから、この時点でもう十分にペイできているのではないかとこの感触です。僕たちにさまざまな取引先がある中で、相手方に「サッカーチームのスポンサーをやっている会社」と思われることは結構、重要なんだと感じています。

岐阜に根ざしたチームづくりを

— ラモス新監督とも関わりがあったと聞きました

藤澤 ラモスとは東京の外苑前にある彼の店に何回か行ったことで知り合いました。あとは複数でカラオケに行ったりとか(笑)。ここ4年くらいで、1年に1、2回会っていった程度ですよ。

— そうだったんですか。
藤澤 どうやってFC岐阜を盛り上げようかと考えていたところ、先ほど言ったように、何か化学反応が必要だと思っていました。そこでラ

モスに呼ぶ。そうすると入場料収入とともにスポンサーも増えます。そのお金でさらに良い選手を呼べればチームはもっと強くなる。そして、さらに観客を呼べるという正のスパイラルになると思います。鶏が先か、卵が先か、の話で、どこかで誰かが思い切ってやらないと、正のスパイラルにはならないですね。それをつくるのが目的でした。

経営も同じなんです。正のスパイラルをつくれれば、わりとうまくいく。それが負のスパイラルに入ってしまうと、ダメな会社はほとんどダメになってしまっんです。それと一緒にだと思っています。正のスパイラルに入るきっかけを僕がつくった、というイメージだと捉えてもらえたらと思います。

年月はかけてもオール岐阜体制に

— 昨年末より、藤澤社長の名が全国的に知れ渡ったと思います。周囲の反応に変化を感じましたか。
藤澤 岐阜では知れ渡ったかなと思います。あと、親戚が増えましたね。宝くじが当たったときのような感じで(笑)。でも、スポーツの発信力はすごいですね。僕たちは上場企業なのでPR(広報活動)の二環としてさまざまなことを発信しているのですが、スポーツ活動での知名度の向上はすごいと感じました。もともと僕は自由な発想を持ってさまざまな経済活動をしてきたために、良いことも悪いことも書かれてきました

が、今回のことに関しては皆、好意



▲地域の人たちに人気のある、岐阜に根ざしたチームづくりをラモス監督(右)に託す。2人は厚い信頼関係で結ばれ、今後も全面的に支持。理想の形を目指していく
▲開幕戦で1万1000人の観衆を集めたホーム長良川。補強費を投じたことによるラモス監督の就任と大型補強の成果が表れた。全国的な注目度も高まっている

— FC岐阜の試合をスタジアムで見られましたか。

藤澤 「チームが弱いから観客が集まらない。スポンサーも集まらないから資金難もある。そして選手を獲得できないから、ずっと弱い」という、負のスパイラルはあると思うんです。それを、正のスパイラルに変えたかった。いきなりチームを強くすることは難しいので、まず、人のある選手を入れて観客をスタジ

藤澤 開幕戦は岐阜まで試合を見に行きました。ラモスが一生懸命に仕事している姿を見たことがなかったです(笑)。あまり邪魔するといけないかなと思って会っていません。昨年は2試合見たんですが、まるで大人と子供の試合でした。2試合とも負けましたし、点が取れないんです。それが今シーズンは開幕戦でいきなり3得点です。スタジアムは盛り上がりましたし、うれしかったです。ラモスを選んだのは確かに僕ですが、あの男を選んで、あそこまでの効果が出るとは思っていませんでした。さすがですね。

— アウエー戦ではありますが、関東など近場でも試合を見られる予定はありますか。東京では5月3日に「国立競技場で最後のJ2戦」として、ラモス監督の古巣・東京ヴェルディとの試合が行われます。

藤澤 その試合は知事も、岐阜を挙げて応援したいといけないと話していました。J2で最後の国立で、ラモスがそこで戦うんです。Jリーグがせっかく、ヴェルディ対岐阜の試合を組んでくれたわけですから、それは見に行かないといけません。4月13日には横浜で横浜FCと、カズ選手対ラモス、もありますしね。

— 最後に、FC岐阜やファンに期待することを教えてください。

藤澤 まず、主役は僕ではないということ。選手をはじめ、地元の人たちが主役となって、いち早く、オール岐阜体制を築いていくことが大切です。そしてファン・サポーターの皆さんには、スタジアムに行ってもチームを後押ししてほしい。強くなればもっと盛り上がりがあります。それ